

人質解放でガザ戦闘最終結を



イスラエル中部テルアビブで、共同通信の単独会見に応じるオルメルト元首相＝1日 (共同)

イスラエル元首相単独会見

イスラエル軍は国連安全保障理事会の停戦決議後もガザ攻撃を続け、民間人被

【エルサレム共同】パレスチナ自治区ガザでのイスラエル軍とイスラム組織ハマスの戦闘開始から7日、半年となるのを前に、イスラエルのエフド・オルメルト元首相(78)が共同通信の単独会見に応じた。ハマスが拘束する全人質解放を条件に、戦闘最終と軍のガザ完全撤収を訴えた。「政府も軍も、誰にも(ガザを巡る)明確な戦略がない」と批判。「ネタニヤフ政権は国内外で信頼を失っている」と述べ、退陣を求めた。

ネタニヤフ政権の退陣要求

エフド・オルメルト氏 1945年、現在のイスラエル北部シヤミナ・ギバアトアタ生まれ。ヘブライ大卒。弁護士を経て73年総選挙で右派政党リクードから国会初当選。93～2003年、エルサ

レム市長。03年に第2次シャロン内閣で入閣、05年にシャロン氏が立ち上げた中道右派政党カデイマに合流した。首相代行を経て、06～09年首相を務めた。(エルサレム共同)

イスラエルのオルメルト元首相発言ポイント

- ◆今のイスラエルにはガザを巡る明確な戦略がない
- ◆イスラム組織A拘束下の全人質解放を条件にBは戦闘を終結させ、Cから完全撤収すべきだ
- ◆D政権は国内外で信頼を失っており、退陣すべきだ
- ◆イスラエルはパレスチナ占領を永久に続けるべきではなくEに占領を再開すべきだ

時交渉妥結を求める大規模デモが実施されている。中部テルアビブで1日、取材に応じたオルメルト氏は「安全保障上、米国をはじめとした外国の信頼を得ることがイスラエルにとって重要だ」と強調した。

オルメルト氏は2006～09年の首相。ネタニヤフ氏と共に右派路線を取っていたが、後にパレスチナとの対話路線に転換した。在任中は06年にレバノ

ン侵攻で親イラン民兵組織ヒズボラと戦闘を繰り返したが、08～09年にはガザへの大規模攻撃に踏み切った一方、「2国家共存」を目指し、中東和平交渉にも臨んだ。

ネタニヤフ氏が目標に掲げる「ハマスの壊滅」は「現実的でなくばかっている」と一蹴した。戦闘員を多数殺害し、多くのトンネルやロケット発射台を多数破壊して「ハマスを軍事的に打倒した」ものの、「長期的なガザ安定に向けた戦略を国際社会と一緒に練り上げる機会を失った」とネタニヤフ氏を非難した。

イスラエルはパレスチナ占領を永久に続けるべきではなく、パレスチナ独立国家を樹立し「2国家共存」を実現すべきだとし、「政治指導者に断固とした決意があれば、国民は支持する」と述べた。戦闘最終後のガザは、国連が承認した部隊が管理、イスラエルは中東和平交渉を再開すると宣言すべきだと訴えた。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

「イスラエルのオルメルト元首相発言ポイント」の空欄A～Eに、本文中から適切な語句を抜き出して入れましょう。

A	B	C
---	---	---

D	E
---	---

NIEワークシートのこたえ（2024年4月8日公開）

◆ワークシート「人質解放でガザ戦闘終結を(社会SDGs16)」

2024.4.5付 朝刊 国際総合 4ページ 解答

A ハマス B イスラエル C ガザ

D ネタニヤフ E 2国家共存